水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

クロマグロが暖かい海を通って釧路沿岸にやってきた？

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横内, 克巳, 黒田, 寛 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009793

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

トピックス

クロマグロが暖かい海を通って釧路沿岸にやってきた？

副所長　横内　克巳
生産環境部 生産変動グループ　黒田　寛

2013年の夏、道東沿岸では近年なかった数のクロマグロが水揚げされました。この時、海の状況はどうなっていたのでしょうか？

今年は8月に入ってから報道関係者の取材が相次ぎました。それは、「クロマグロが例年になく多く水揚げされているが、道東の海水温の現状についてインタビューしたい」との地元テレビ局からの要請に始まりました。釧路沿岸の定置網に多数のクロマグロが入網しており、猛暑との関係に関心が集まっていたのです。今夏は確かに7月下旬から8月にかけて、北海道周辺、特に道東沿岸域で海水温が高い状況が続いていました。

道東海域は親潮が広く分布するほかに、黒潮続流から切り離されて移動してくる暖水の渦（暖水塊）やオホーツク海からの海流が複雑に関係しながら変化しているため、海洋の状況によって魚の回遊経路や漁場の位置が変化します。

水研センターが提供している海況予測システム(FRA-ROMS*)によると、今年の8月の状況としては、黒潮続流から切り離された暖水塊が釧路沖に6月以降停滞していました。この暖水塊の南には暖水舌（舌のように伸びた暖水域）、その南にはもう一つの暖水塊、さらにその南には黒潮続流が分布しており、平年よりも水温の高い海域が、スポット的に、黒潮域から道東域まで連続的に分布していました（図1）。また、漁業調査船の厚岸沖観測線（Aライン）調査によると、暖かい水域がその暖水塊から釧路沿岸域まで波及していることが確認されました。このような海の状況から、クロマグロが暖かい海を通って釧路沿岸にやってきた可能性が考えられました。今回のように、道東の南沖に暖水塊ができることは珍しいことではありませんが、これが停滞すると漁模様にいろいろな影響が現れます（図2）。

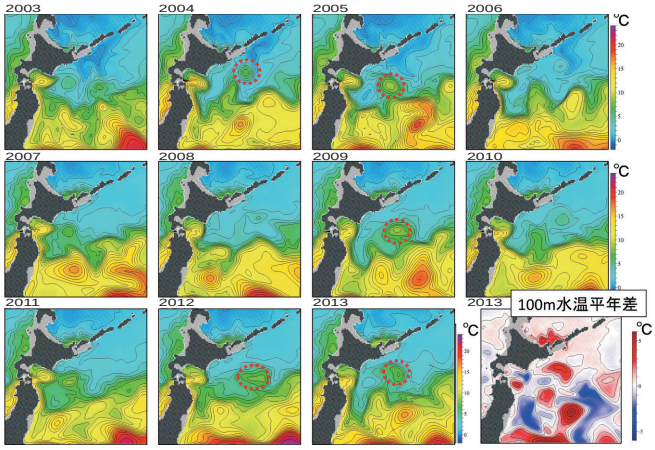

図2　2003-2013年8月前半の100m深水温分布図（8月1-15日平均）
点線赤丸は釧路南東沖の暖水塊、右下図は平年偏差

今年の夏から秋にかけて、道東沿岸では、クロマグロだけでなく、マンボウやブリなどの暖水性の魚種が多く来遊したり、秋鮭の不振が続いていたりして話題になり、新聞やテレビでも取り上げられました。こうした現象はすぐに地球温暖化の影響と考えられがちですが、海の構造はとても複雑で大きく変化していますし、明治から戦前にかけて釧路でもクロマグロの水揚げがありました。このように日々起こっている個々の海洋における自然現象を明らかにするとともに、地球温暖化などの気候変動による水産業への影響に対応するためには、長期的なモニタリングを継続してゆくことによって、特異現象をいち早く検出しその要因を究明してゆくことが必要であると考えています。

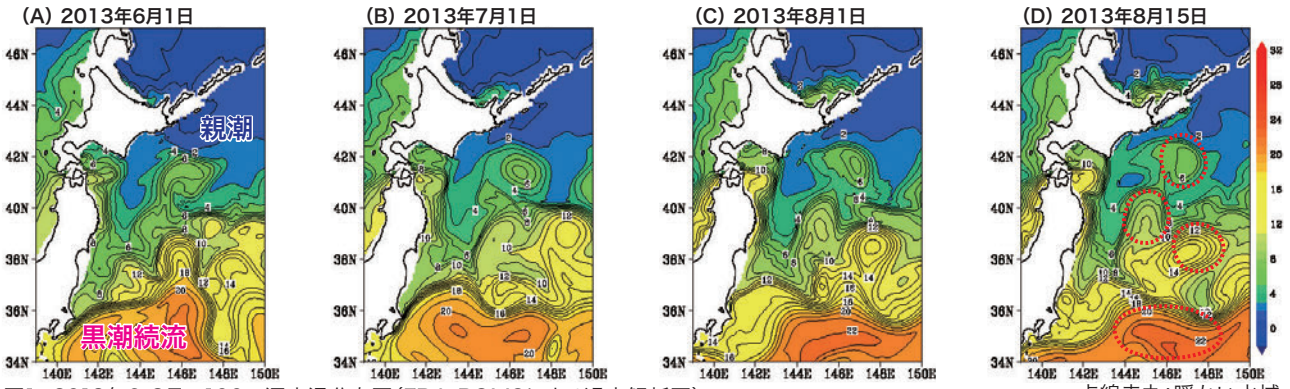

図1　2013年6-8月の100m深水温分布図（FRA-ROMSによる過去解析図）
点線赤丸：暖かい水域

* FRA-ROMS: 道総研などの水産試験研究機関と連携し観測データをもとに海洋の現況及び過去解析図と2ヶ月先までの予測図を提供
http://fm.dc.affrc.go.jp/fra-roms/index.html